

基本理念

市民と自然とを結ぶ「窓口」となる公園をめざす

地球環境問題の深刻化

(市民は何を知り、何をなすべきか)

身近な自然の減少

(自然を考える場の不足)

市民と自然とを結ぶ「窓口」の必要性

- 「窓口」の機能
- ・自然と親しみ、遊ぶ
 - ・動物や自然のことを知り、学ぶ
 - ・郷土の自然へと市民を導く
 - ・野生動物をまもり、はぐくむ

計画地周辺の良好な自然環境
到津遊園の果たしてきた役割

機能構成、空間配置

動物展示ゾーン

郷土の動物ゾーン

世界の動物ゾーン

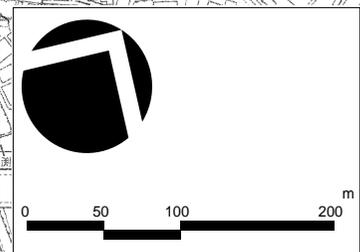
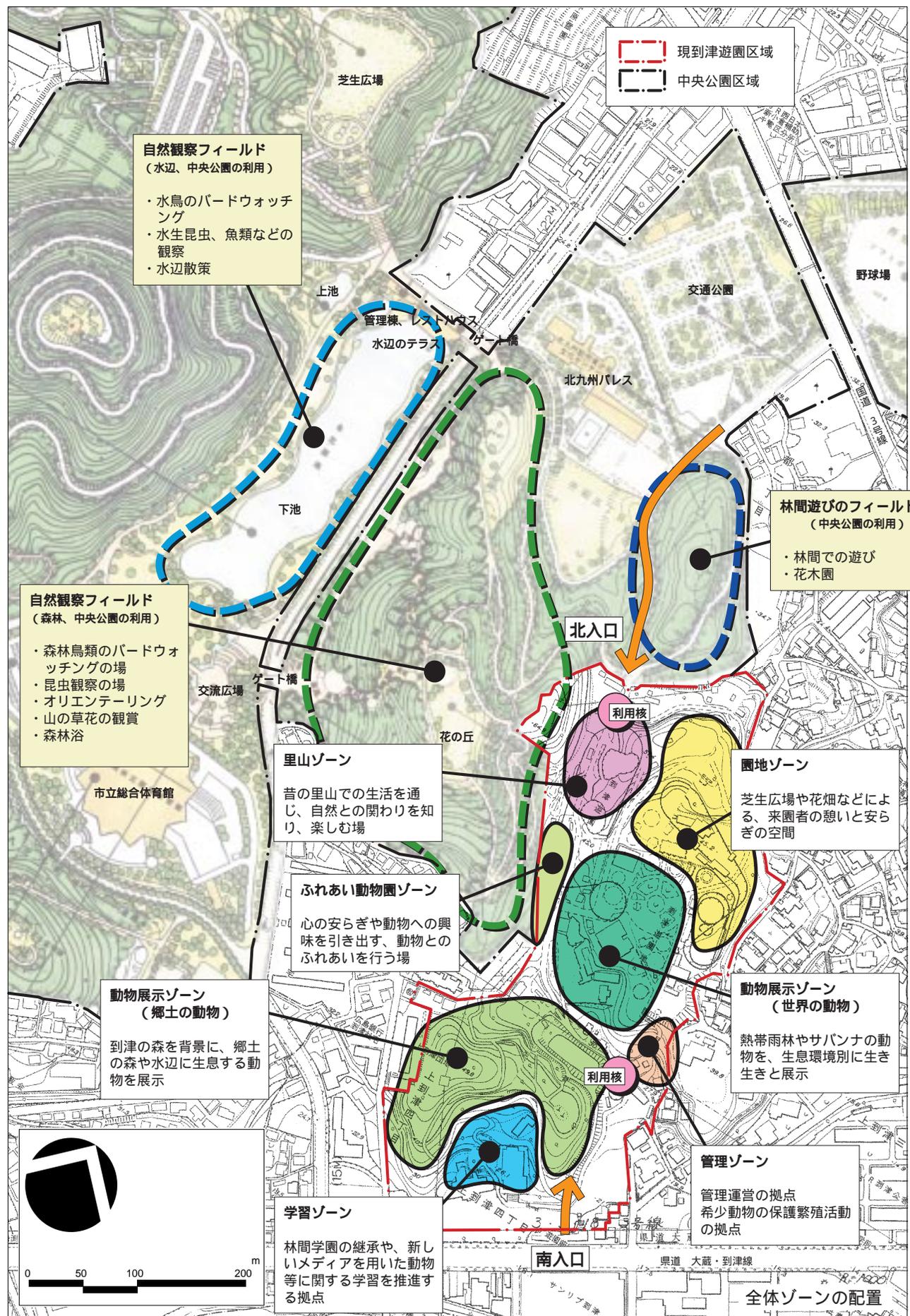
ふれあい動物園ゾーン

園地ゾーン

里山ゾーン

学習ゾーン

管理ゾーン



全体ゾーンの配置

展示動物の選定基準

前提

現在の動物園では、「環境教育」と「種の保存」という二つの課題がクローズアップされている。このうち、「環境教育」を実践する上で、動物園は、地球上の多様な自然環境を知り・学ぶ場となることが求められており、そのために次に示すような動物展示や展示動物の構成を行うことを、本計画地においても実践することが求められる。

- ・自然環境のすばらしさや驚きを肌で感じ実感することにより、環境を認知する力を養う。そのために、展示では「自然そのまま」の環境演出を行うことが必要であり、この考え方を進めるために、展示のゾーンは生息地（ハビタート）別に空間を区切る構成を行う。
- ・環境の多様性や動物と自然の関係を理解するために、動物と動物、動物と植物など、動物とその周辺環境とのかかわりが理解できる様、生息地と動物の関係が明確に理解しやすいゾーン構成を行う。
- ・種の保存に配慮し、繁殖可能な動物点数、構成を飼育するとともに、展示施設の整備にも反映させる。

動物の選定基準

展示動物の選定では、野生動物を取り巻く社会情勢や展示に関するコンセプトなどを考慮し、動物の健康やゆとりのある飼育環境を実現するため、次に示す基準を設定する。

また、この選定基準に従い現在到津遊園で飼育されている種を前提に動物を選定すると右表のようになり、このリストを原則として今後の計画を進めることが望まれる。

- ・展示テーマに合致する種を優先して選定する。
- ・動物と環境とのかかわりを説明することができる、特有の生活形や形態を持つ種を優先して選定する。
- ・現況の動物リストを基準に選定する。
- ・親善動物（セイロンゾウ、フランソアルトン、レッサーパンダ）は残す。
- ・ひびき動物ワールドとの役割分担を考慮する。
- ・市民意見調査の結果を踏まえ、知名度、人気の高い動物は、極力残す。

展示動物種リスト（案）

ゾーン		目	科	種
郷土の動物ゾーン	郷土の水辺	コウノトリ カモ キジ ツル	コウノトリ カモ キジ ツル	コウノトリ類、トキ類 カモ類 キジ類 ツル類
	郷土の森林	サル ネズミ ネコ " ウサギ ウシ フクロウ	オナガザル リス イヌ イタチ ウサギ イノシシ フクロウ	ニホンザル〔4位〕 ムササビ タヌキ テン キュウシュウノウサギ ニホンイノシシ フクロウ
世界の動物ゾーン	樹冠の世界	サル " "	オナガザル " テナガザル	フランソアルトン〔4位〕 アンゴラコロプス〔4位〕 テナガザル類〔4位〕
		インコ ブッポウソウ キツツキ トカゲ	インコ サイチョウ オオハシ イグアナ	インコ類 サイチョウ類 オオハシ類 グリーンイグアナ
		サル " " " ネコ ゾウ	オナガザル " ショウジョウ キツネザル ネコ ゾウ	ブタオザル〔4位〕 カニクイザル〔4位〕 チンパンジー〔4位〕 キツネザル類〔4位〕 トラ〔5位〕 セイロンゾウ〔1位〕 小型哺乳類
	草原の世界	サル " ネコ " ウマ ウシ ダチョウ フラミンゴ	オナガザル " マンゲース ネコ ウマ キリン ダチョウ フラミンゴ	バタスモンキー〔4位〕 マンドリル〔4位〕 ミーアキャット ライオン〔3位〕 チャップマンシマウマ アミメキリン〔2位〕 ダチョウ フラミンゴ
ふれあい動物園ゾーン	ネズミ ネコ " ウサギ ウマ ウシ "	ネズミ パンダ アライグマ ウサギ ウマ ラクダ ウシ "	ネズミ類 レッサーパンダ アライグマ ウサギ類 ロバ フタコブラクダ ヤギ（雑）	
	カモ キジ " インコ	カモ キジ " インコ	アヒル（雑） ウズラ シチメンチョウ インコ類	

分類は到津遊園飼育動物一覧表による。
〔 〕内は市民意見調査による順位（5位まで）を表す。

動物展示ゾーンの考え方

導入テーマ

郷土の動物ゾーン

郷土の森林

郷土の水辺

世界の動物ゾーン

樹冠の世界

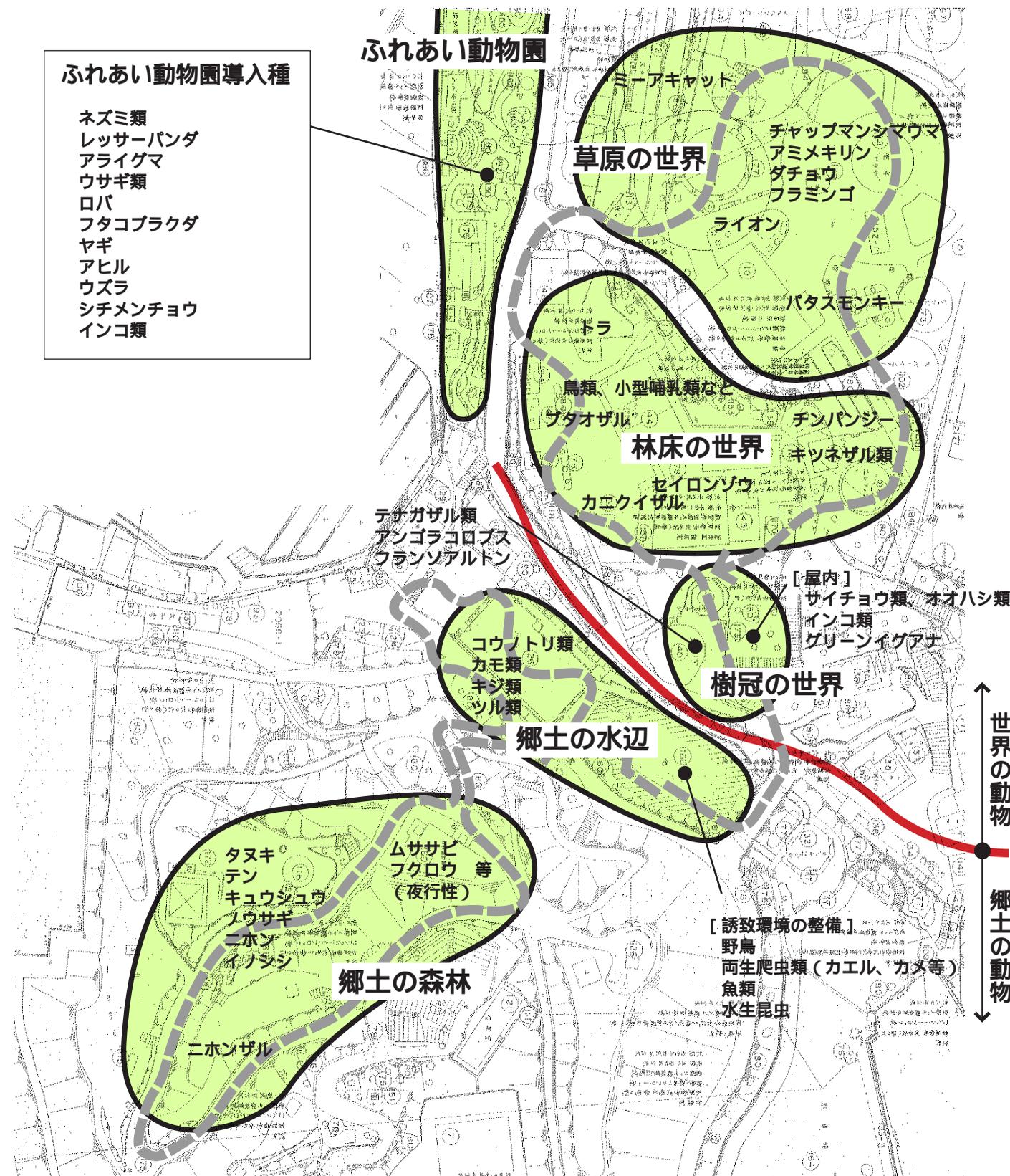
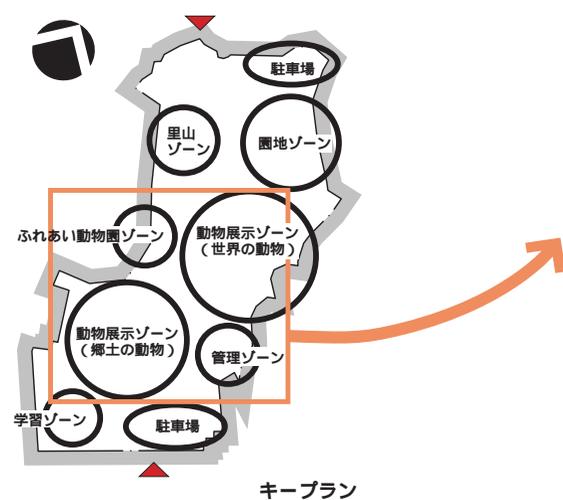
林床の世界

草原の世界

ふれあい動物園

ふれあい動物園導入種

- ネズミ類
- レッサーパンダ
- アライグマ
- ウサギ類
- ロバ
- フタコブラクダ
- ヤギ
- アヒル
- ウズラ
- シチメンチョウ
- インコ類



郷土の森林 (郷土の動物ゾーン) の展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、昔から人間の生活と密接に関わってきた里山や森林の動物とその生活を、現況の照葉樹林 (到津の森) を生かしながら展示する。

展示方法

現況の照葉樹林に落葉広葉樹などを補植しながら環境の多様化を図り、森林性ほ乳類などの生息環境を再現する。観覧方法は、樹林の中を来園者自身が歩き観察することにより展示動物を見つけだすような擬似自然観察体験ができる展示とする。

園内配置

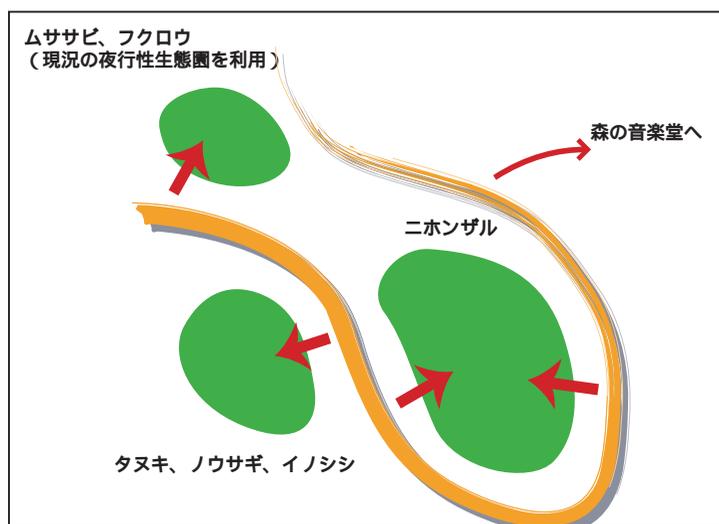
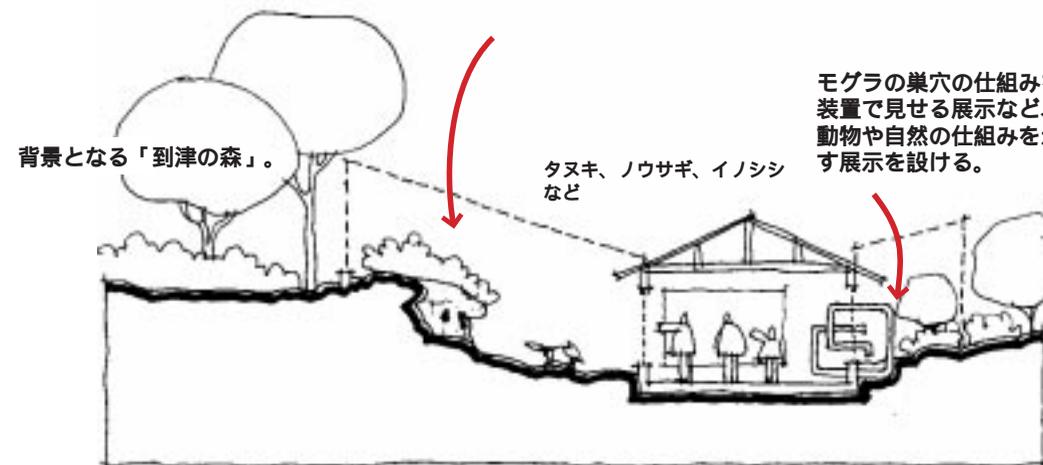
到津の森の現況樹林を損なわない空地などを中心に展示施設を点在させる。

動物種

現在の展示動物から、日本に生息する代表的な小型ほ乳類や鳥類を中心に選定する。また、現況の夜行性生態園を有効利用するため、森林の夜行性動物も合わせて選定する。

小型動物は、動物の活動や巣穴などが近くで観察できる様、ケージ (アミ) による展示を行う。

モグラの巣穴の仕組みを装置で見せる展示など、動物や自然の仕組みを示す展示を設ける。

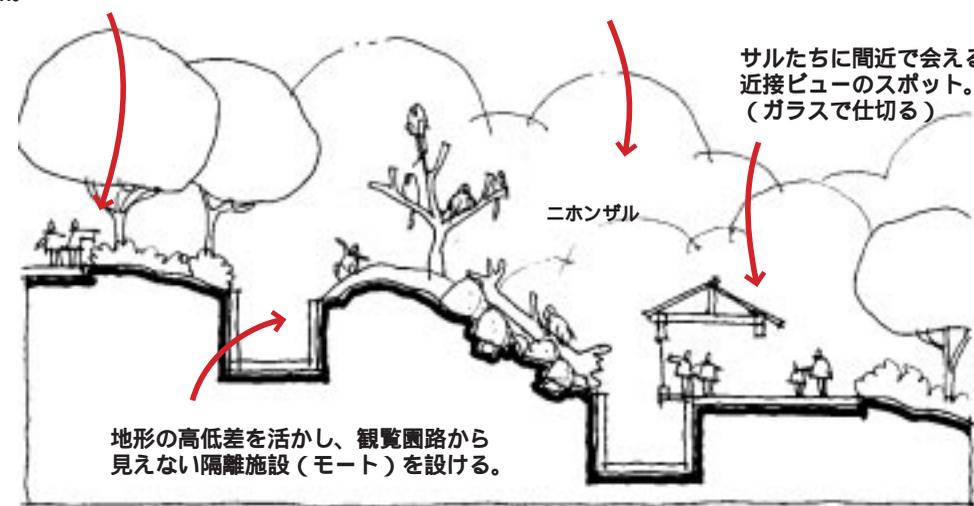


「郷土の森林」の展示構成

森を散歩していたら、ふとニホンザルを見つけた様な雰囲気を感じられる、樹林に囲まれた観覧園路。

「到津の森」の樹木を最大限に生かしつつ、植物の補植などにより多様で自然性の豊かな森林へと更新する。

サルたちに間近で会える近接ビューのスポット。(ガラスで仕切る)



郷土の水辺 (郷土の動物ゾーン) の展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、生態的に多様で、かつ景観的にも魅力的な水辺の自然環境をテーマとして、水と陸の境界領域で展開される様々な動物の生活や共生の姿を展示する。また現況ため池の、水辺の環境整備や水質改善を行うことにより、動物や昆虫の誘致を行い、園内の自然度向上と自然観察空間の創出を図る。

展示方法

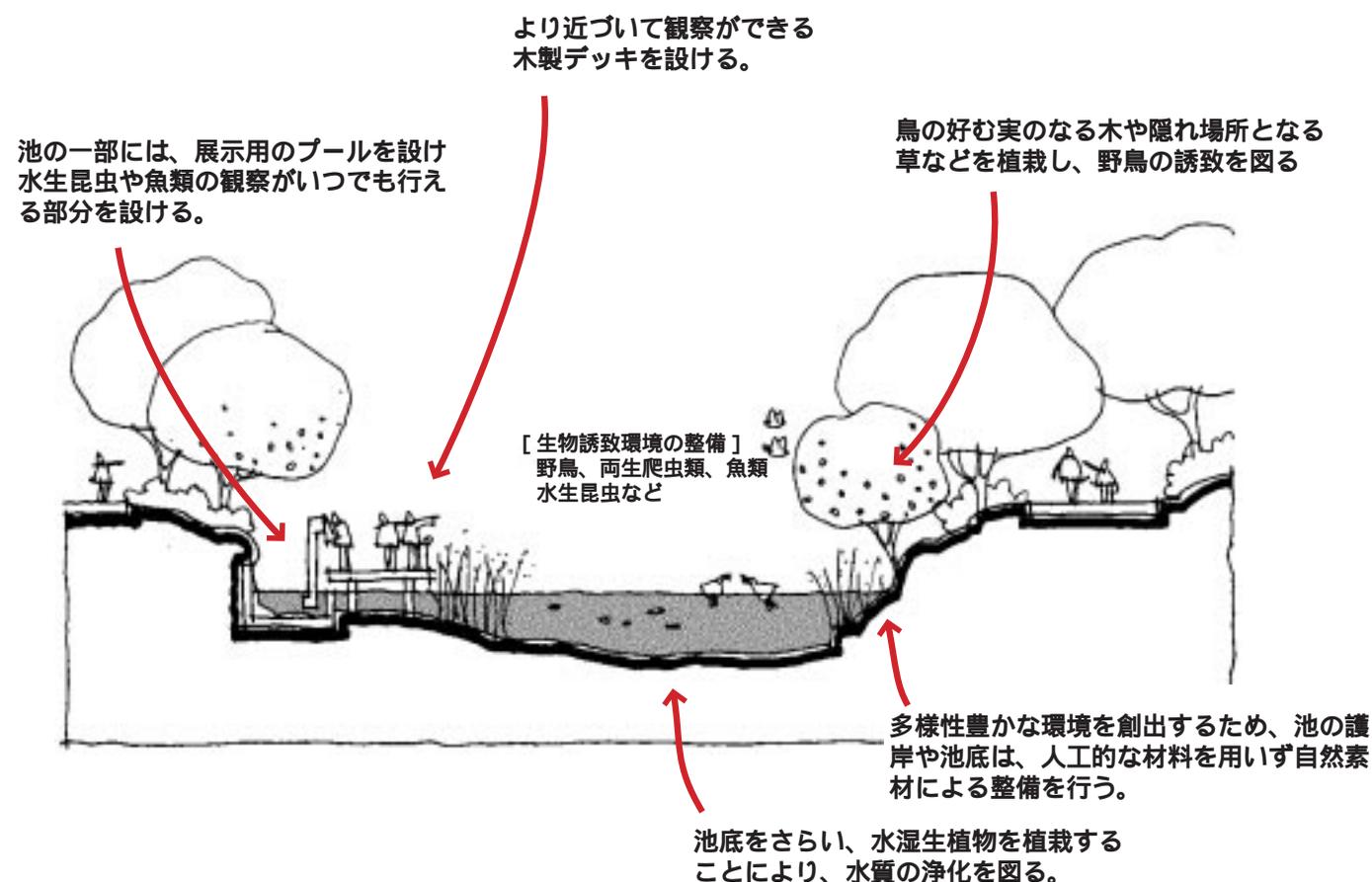
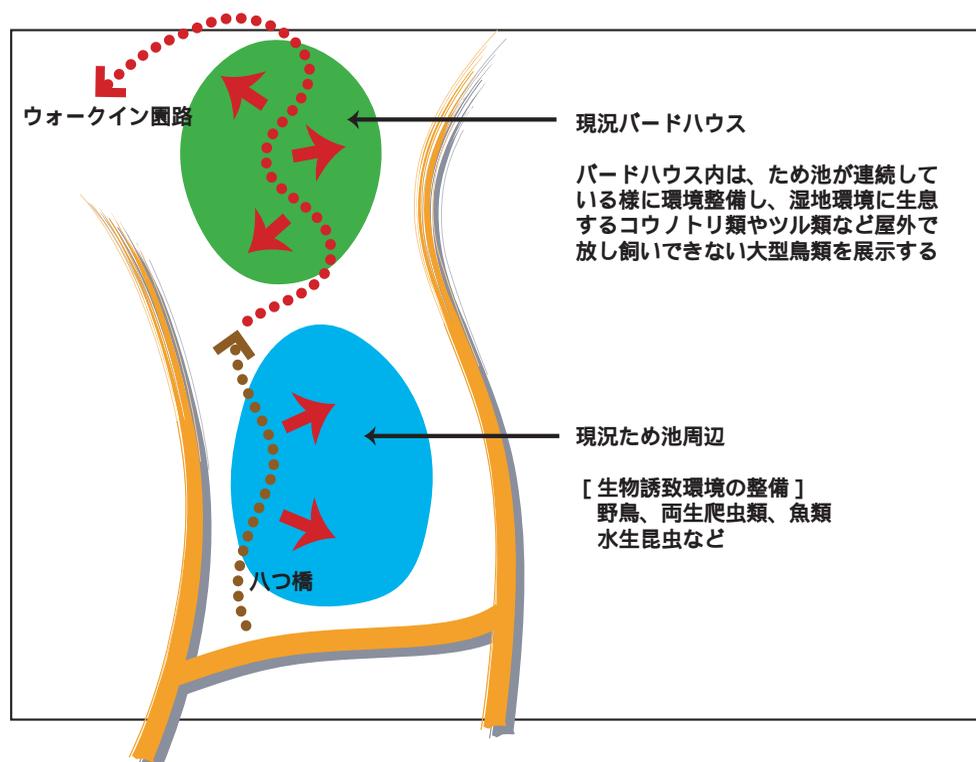
普段、目にするのできない水中の世界をガラスで見せたり、水面にできるだけ近づくことのできる木製デッキを設けることにより、来園者が水の世界を体感できる展示を展開する。

園内配置

現況ため池を中心に、隣接するバードハウス (既存施設) を取り込んだエリアとする。

動物種

現在の展示動物から、水辺や草地など平野部に生息する鳥類を中心に選定する。



「郷土の水辺」の展示構成

樹冠の世界 (世界の動物ゾーン) の展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、地球上で最も多様な環境を有している熱帯雨林をテーマとして取り上げ、普段意識することの少ない森林の樹冠の環境を展示する。

展示方法

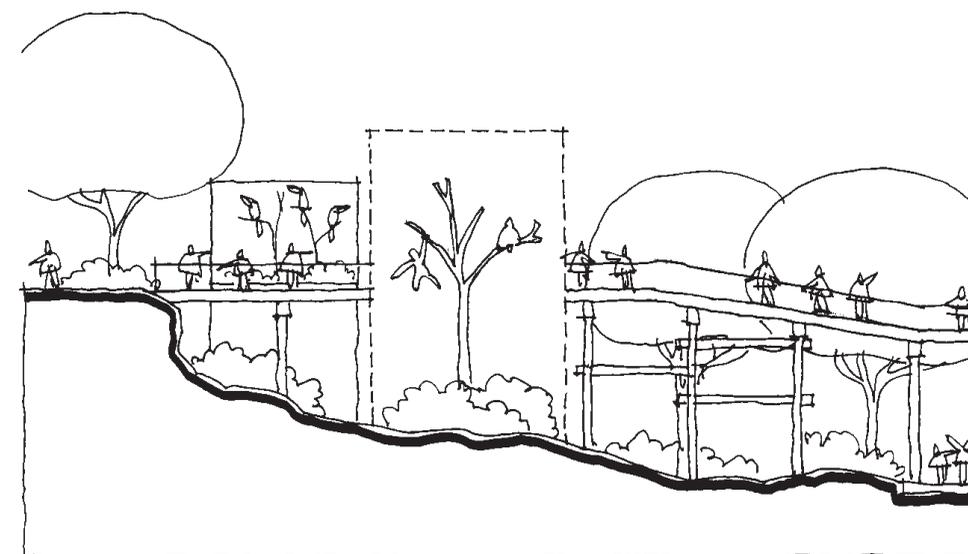
樹冠と林床の違いを体感できるように、来園者自身が樹林の高い位置に登り樹冠をのぞき込むような展示手法を取り入れる。そのため、木々の間を高い位置で通る木橋による観覧動線を設ける。

園内配置

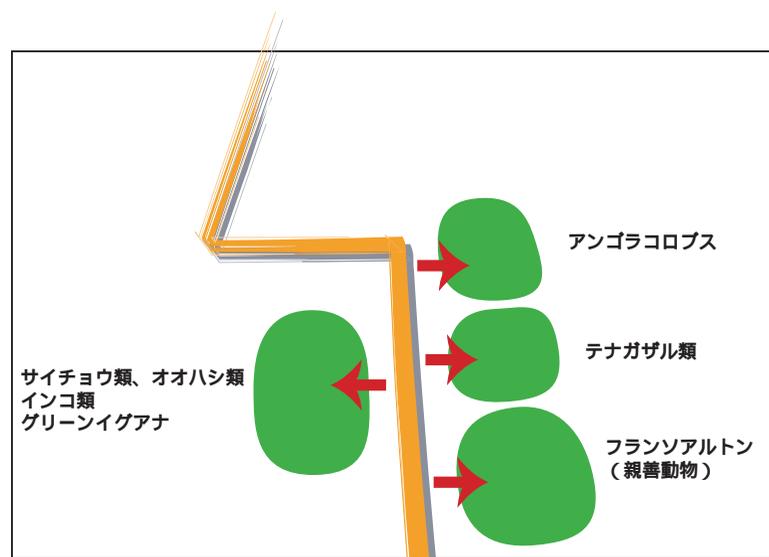
高低差を生かし、かつ既存木を展示の背景として利用するため、既存林を有するため池北側の斜面地に配置する。

動物種

現在の展示動物から、樹冠生活に適した熱帯雨林の動物を中心に選定する。



側面のイメージ



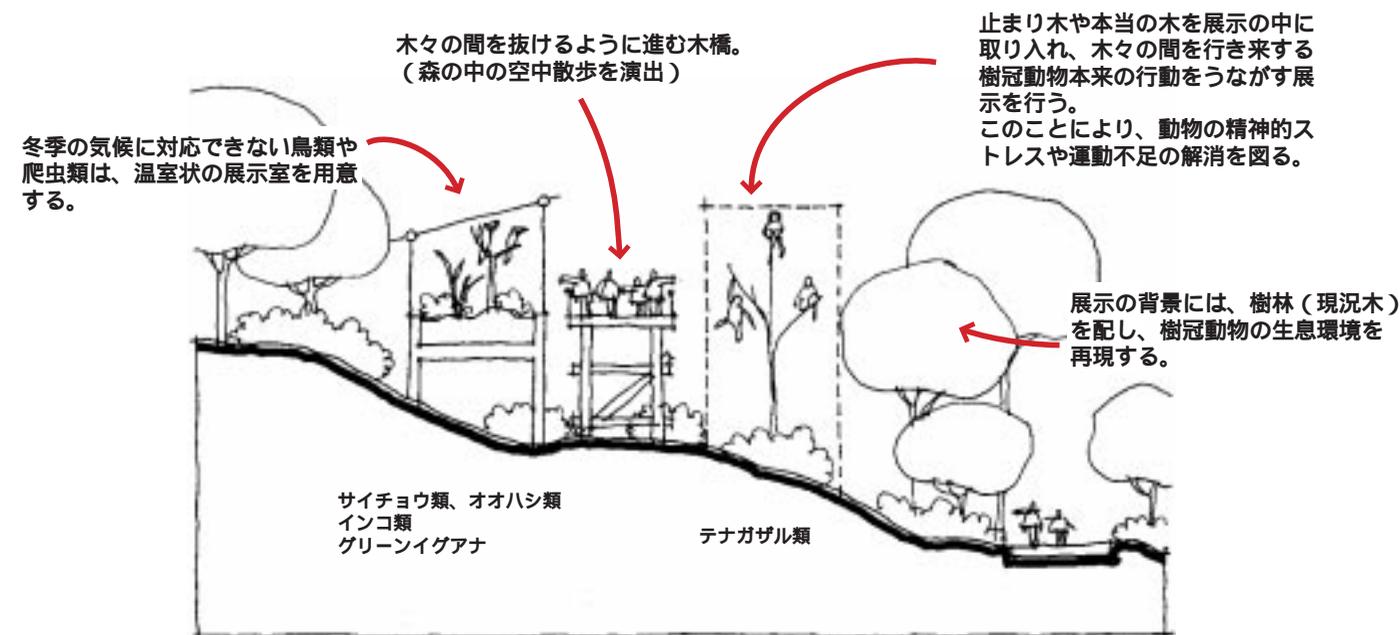
「樹冠の世界」の展示構成

サイチョウ類、オオハシ類
インコ類
グリーンイグアナ

アンゴラコロブス

テナガザル類

フランソアルトン
(親善動物)



冬季の気候に対応できない鳥類や
爬虫類は、温室状の展示室を用意
する。

木々の間を抜けるように進む木橋。
(森の中の空中散歩を演出)

止まり木や本当の木を展示の中に
取り入れ、木々の間を往来する
樹冠動物本来の行動をつながす展
示を行う。
このことにより、動物の精神的ス
トレスや運動不足の解消を図る。

展示の背景には、樹林(現況木)
を配し、樹冠動物の生息環境を
再現する。

サイチョウ類、オオハシ類
インコ類
グリーンイグアナ

テナガザル類

断面のイメージ

林床の世界 (世界の動物ゾーン) の展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、「樹冠の世界」と密接な関係がありながら、まったく異なる生態や動物が生息する熱帯雨林の林床や水辺を展示し、熱帯雨林の多様性や様々な動物の共生の姿を来園者に伝える。

展示方法

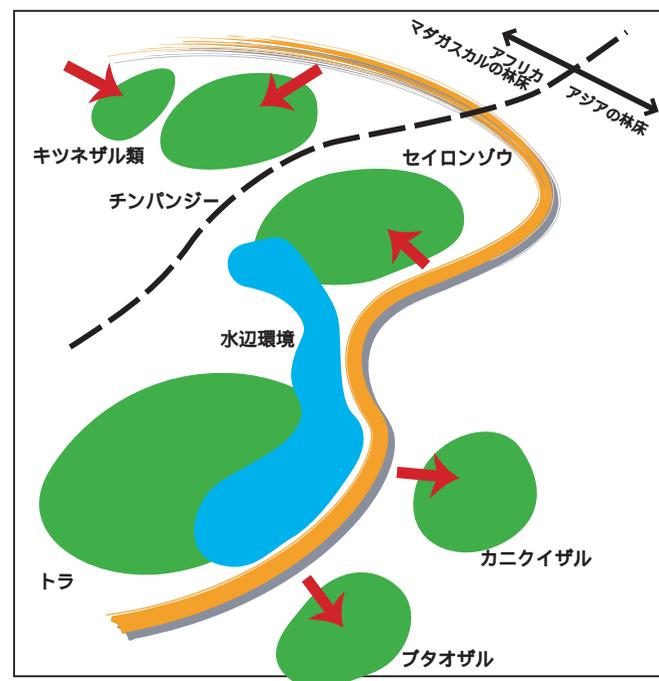
薄暗い熱帯雨林の林床を体感できるように、ジャングルの中を分け入るような小道、特異な形をした植物に囲まれた小広場、湿地や水辺などを配置し、ジャングルウォーク体験を演出する。

園内配置

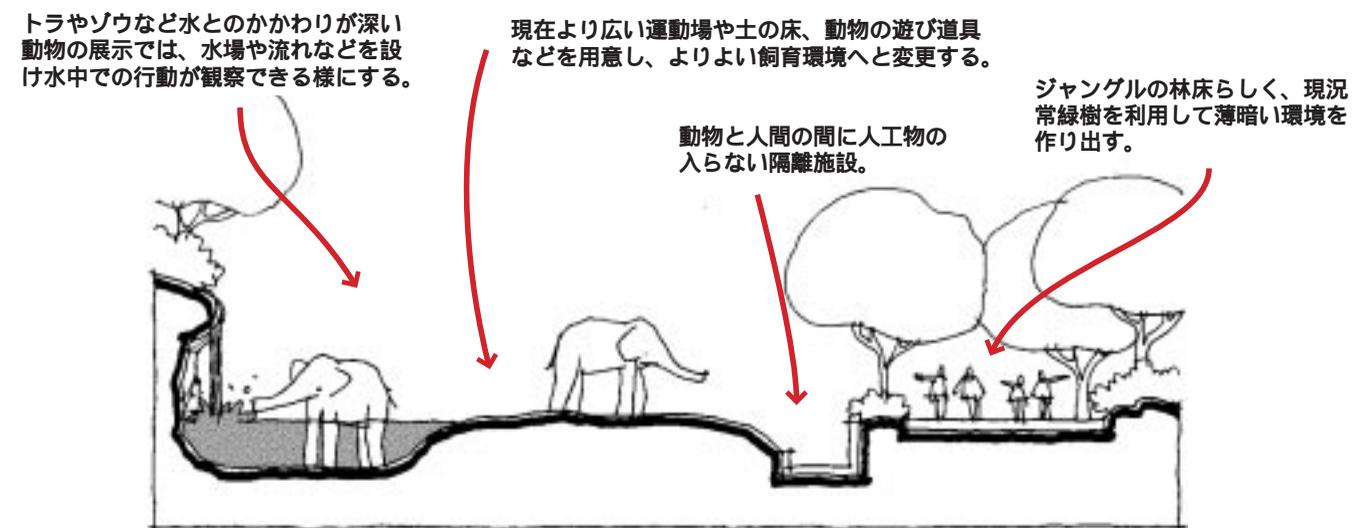
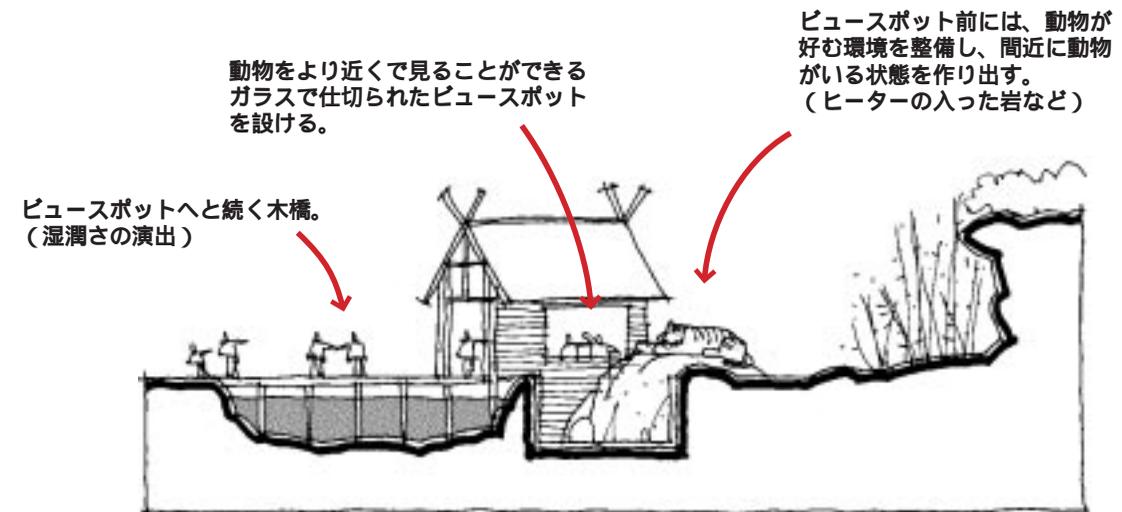
高さの違いによる生態的関連性をわかりやすく体感できるように、「樹冠」ゾーン直近に位置する既存樹に囲まれた平坦地に配置する。

動物種

現在の展示動物から、樹冠生活者とは生活や体の機能が明らかに異なり、比較が容易な動物を中心に選定する。



「林床の世界」の展示構成



草原の世界 (世界の動物ゾーン) の展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、熱帯雨林との環境の対比が鮮明に現れ、かつ市民が親しみを覚えやすい大型動物が生息しているサバンナを中心とした草原の環境を展示する。

展示方法

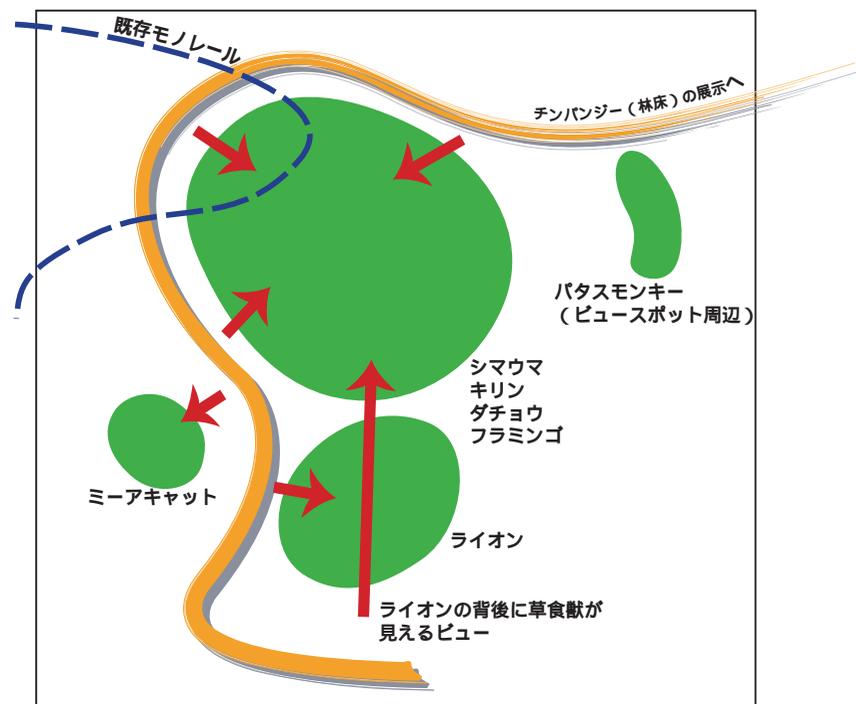
広大なサバンナのイメージを比較的狭い敷地で表現するため、草原の中をさまよう蛇行した園路により展示ルートを構成する。また、普段見ることのできない動物の背中や、パドックの全景を見せるため、既存モノレールを利用した展示も取り入れる。

園内配置

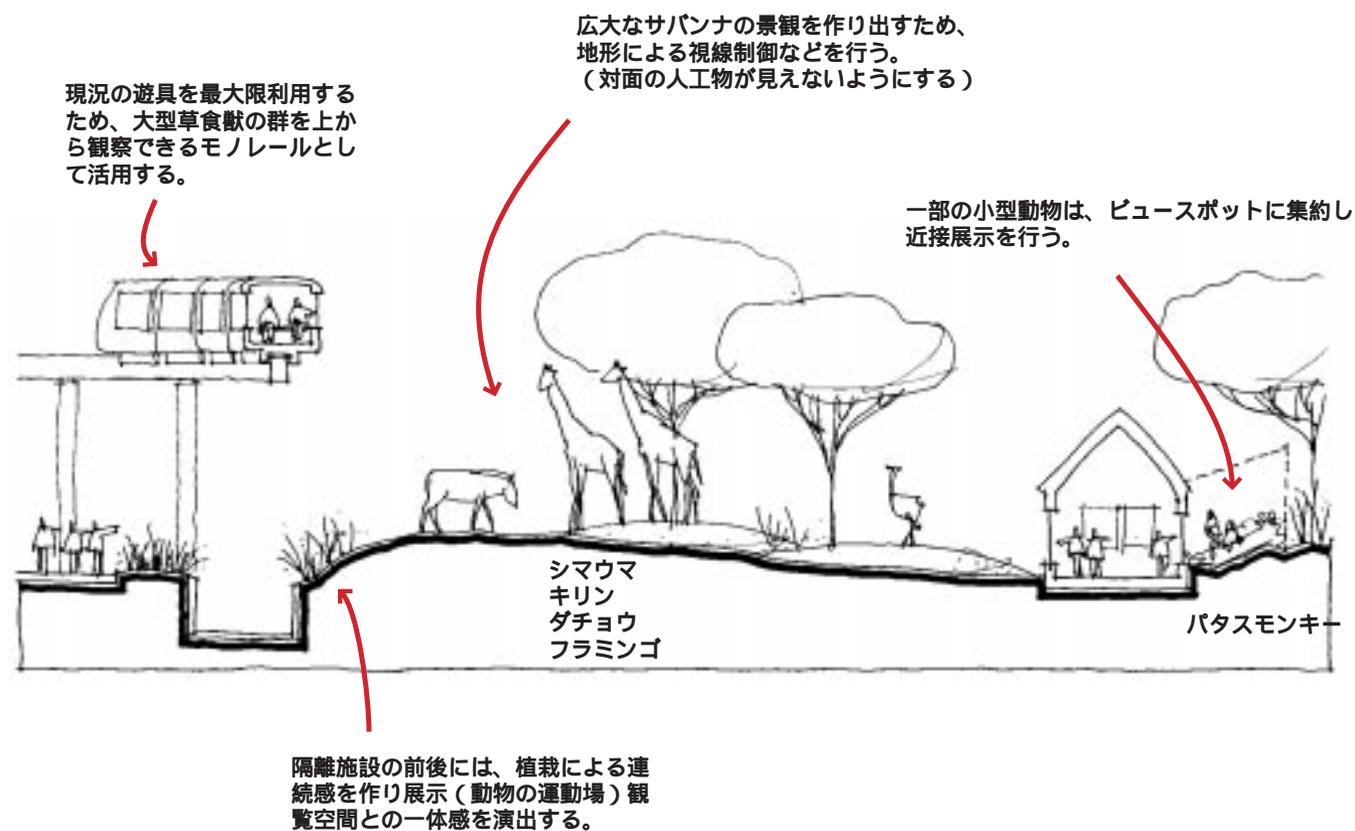
草原の再現に必要な平坦な敷地が確保できる、現遊園地区域の南側に配置する。

動物種

現在の展示動物から、人気の高い大型草食獣と、草原特有の生活形を有する動物を中心に選定する。



「草原の世界」の展示構成



ふれあい動物園ゾーンの展示イメージ

展示内容

このゾーンでは、現況の施設を有効利用しながら、動物との直接的なふれあいやショー的要素を持ったイベント、レクチャーなどを展開することにより、感動的で印象深い動物との出会いを演出する展示や運営を行う。

また、将来的には、隣接する里山ゾーンと連携した人間の生活に深いかかわりを持つ家畜動物の展示スペースとして活用することや、学校教育で登場する動物を展示し、児童や先生に生きた教材を提供する場として利用することも検討する。

展示方法

柵や仕切壁をできるだけ低く抑えた、動物にできるだけ近づける展示方法を原則とするが、今後の改修にあたっては、動物へのストレスやいたずら防止のための対策などに十分配慮することが必要である。

園内配置

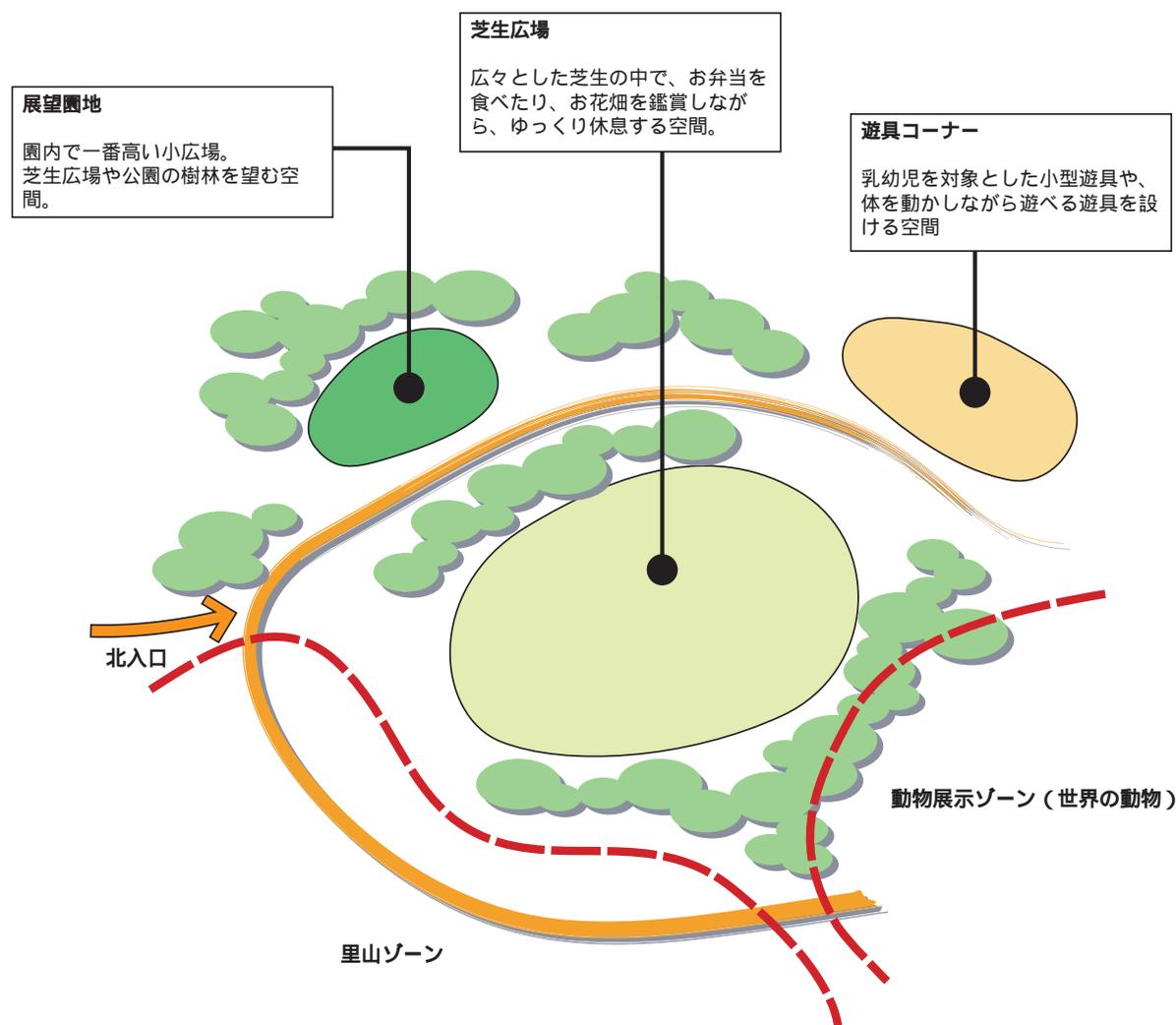
現況施設の有効利用を図ること、里山ゾーンとの連携を図ること等の理由により、このゾーンの配置は現在のふれあい動物園と同じ位置とする。

動物種

現在の家畜種を中心とした動物構成とする。

園地ゾーンの考え方

園地ゾーンでは、自然の中でのやすらぎや楽しみが得られる特色あるレクリエーション機能を充実させるため、下図の施設を導入する。また、各施設の配置は、最も面積を必要とする芝生広場を中心に、地形状況や既存遊具の配置等を考慮し設定する。



遊具選定の基準

計画地の基本理念や全体イメージを考慮すると、現在の到津遊園に設置されている遊具は、必ずしも望ましい施設であるとは言い難く、動物の飼育環境としても、騒音等好ましくないものが多い。また、大型テーマパークとの役割分担やレジャーの高度化などにより、既存のスリルを楽しむ大型遊具の存続についても、十分検討を行う必要がある。

さらに、現況の遊具の中には、設置年度が古く老朽化したものや、メンテナンス等の費用が高額なものなど、維持管理上の問題を生じる可能性のあるものも多く見られる。

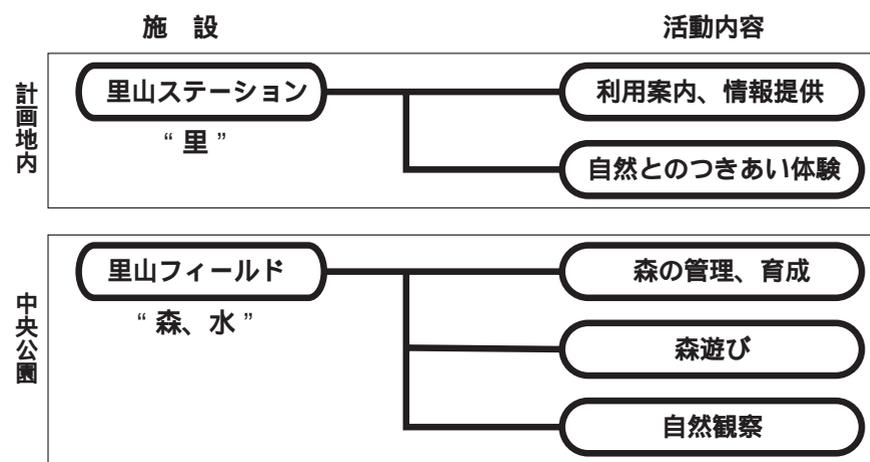
しかしながら、市民意見調査の結果では、乳幼児を対象とした遊具に対する要望も多く見られるため、ここでは、計画地の役割や性格を考慮した次の選定基準を設定し、将来的に計画地の運営の方向に合致する施設についてのみ残すこととする。

遊具選定の基準

- ・計画地の自然を知ることができる、森を眺望する遊具
- ・動物を新しい視点で見ることができる、高い位置をゆっくり走行する遊具(モノレールなど)
- ・身近なレクリエーションを満足させ、ニーズも高い乳幼児向けの遊具(子供汽車、メリーゴーランド系のもの)
- ・身近な遊びの一要素として、体を動かす遊具(サイクルモノレールなど)
- ・管理費等において維持管理上大きな問題を生じないもの

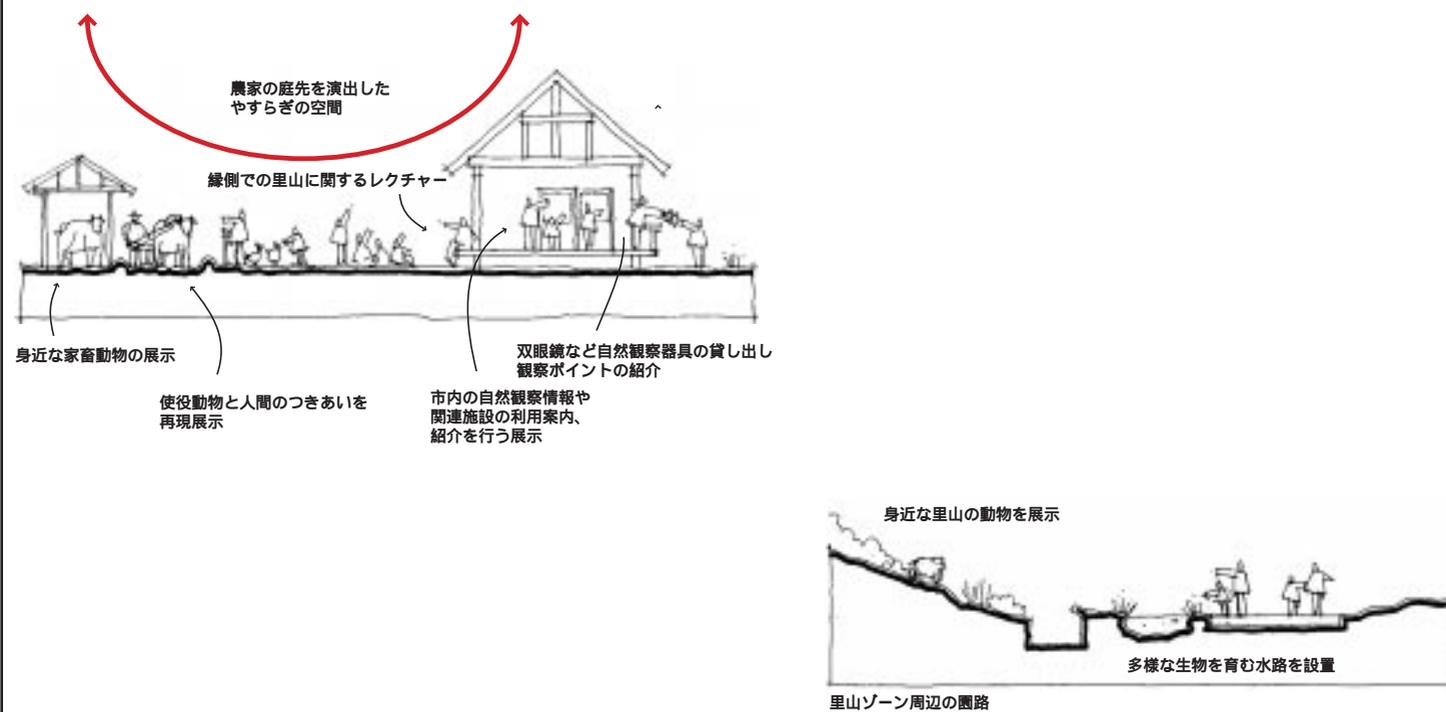
里山ゾーンのかえ方

里山ゾーンの活動内容



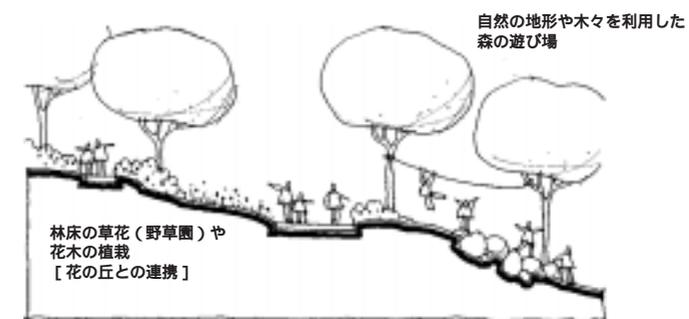
里山ステーション

「利用案内、情報提供、自然とのつきあい体験」の施設イメージ

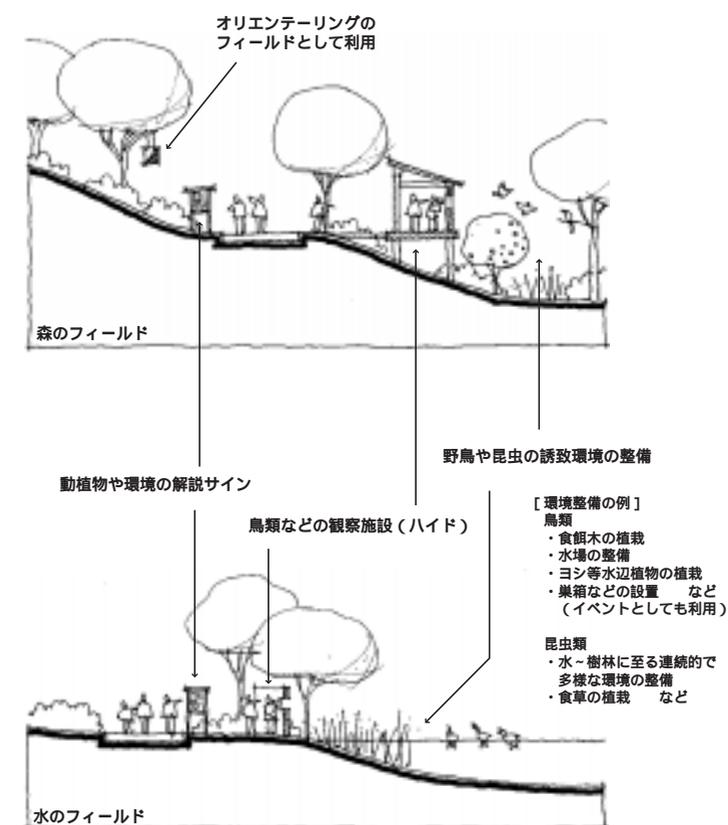


里山フィールド

「森遊び」の施設イメージ



「自然観察」の施設イメージ



学習ゾーンの考え方

学習ゾーンでは、歴史ある林間学園の継承や、動物展示ゾーンに関連した情報の提供、学校の課外授業等団体利用への対応を主軸に、動物園に強く求められている環境教育の実践を含めた学習メニューを展開する。このため、各種イベントやレクチャーの開催や見る機会の少ない動物の特別な行動を映像等により解説する。

ここでは、森の音楽堂等の既存施設を活用するとともに、新たなレクリエーション要素ともなる映像を取り入れた展示・学習機能の導入を行う。

学習ゾーンの導入機能および施設

林間学園の主会場 ----- 森の音楽堂（既設）
イベントスペース

同上（雨天時対応） ----- 屋内型イベント会場
屋内催事

動物展示の補完機能 ----- 映像展示学習機能
映像を利用したレクリエーション
映像資料の提供

管理ゾーンの考え方

管理ゾーンでは、園内の適正な管理運営を行う拠点として、次の機能を導入する。

動物管理の拠点機能

飼育動物の健康維持、日常のエサなどの用意、受入動物の検疫など、野生動物を飼育、展示する上で不可欠な機能。

導入施設

動物病院	検疫施設
予備飼育舎、運動場	飼料調理室
飼料倉庫	標本庫 など

野生動物保護繁殖の拠点機能

野生動物の保護や自然復帰のためのバックヤードとして、また動物の繁殖を促すために必要となる機能。

導入施設

事務所	繁殖ケージ、運動場
リハビリケージ、運動場	育雛室、孵卵器室
野生鳥獣保護施設 など	

公園管理の拠点機能

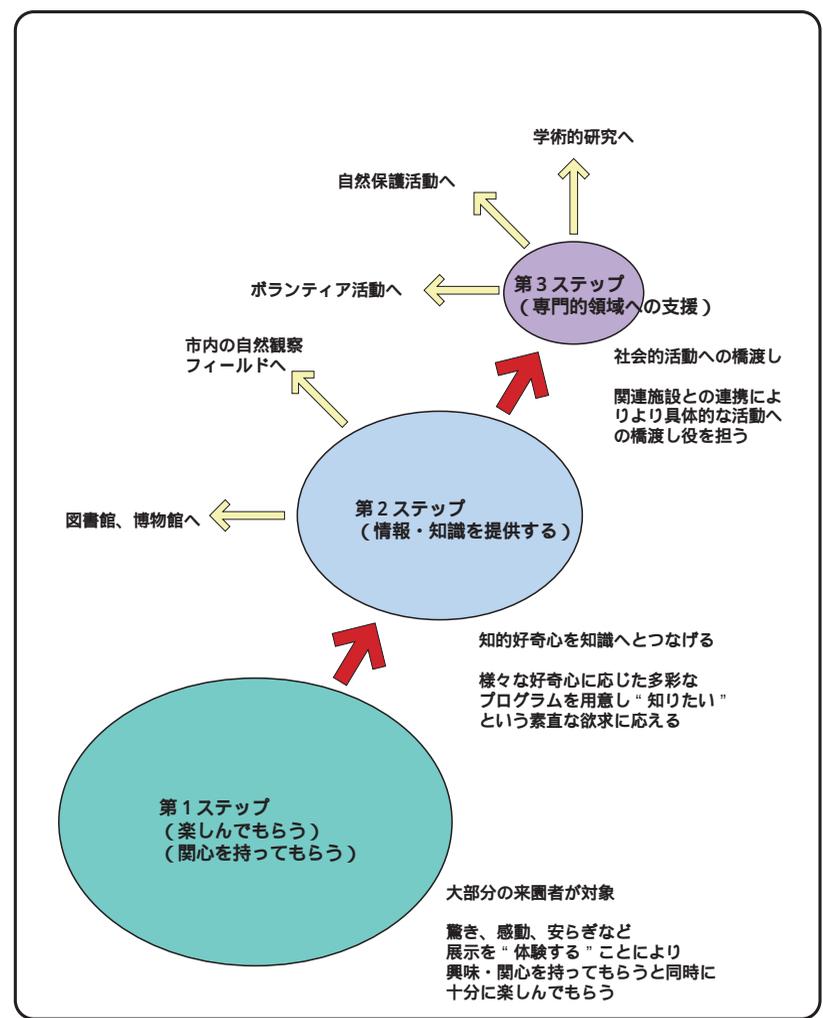
計画地全域に関わる、施設管理、来園者に対するサービスや入退場のチェック、職員の便益に供するための機能。

導入施設

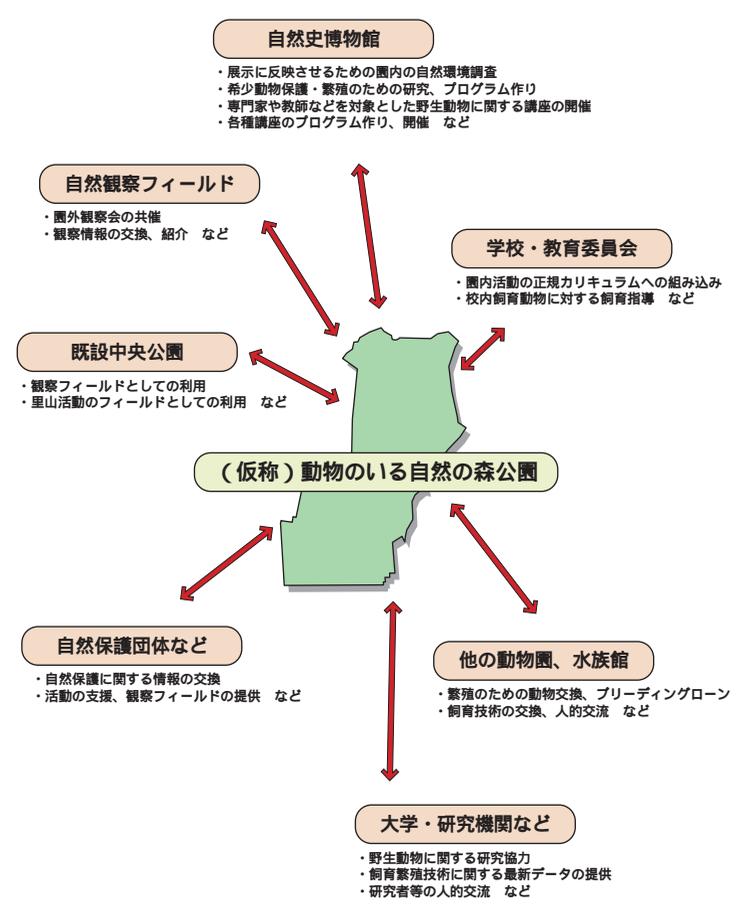
公園管理事務所	職員控え室 など
---------	---------------

運営にあたっての考え方

運営方針



他施設、機関との連携体制



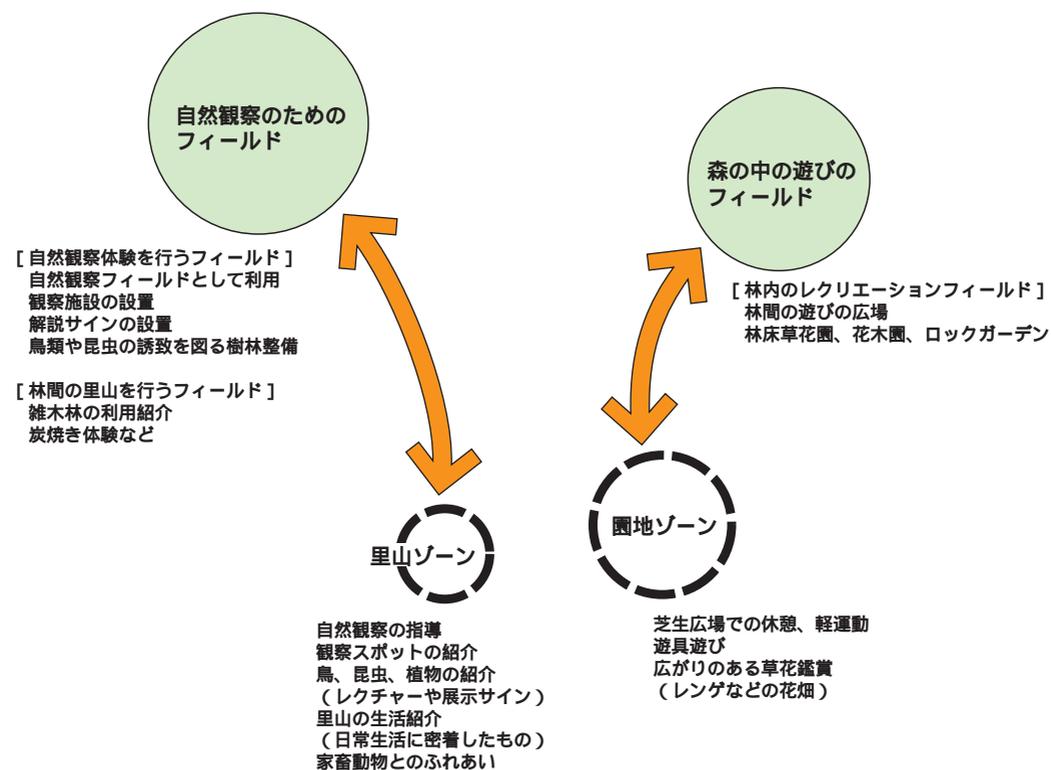
市民参加の内容

参加内容	参加者の動機	運営者の対応
来園する展示を見る 遺足に来る	暇つぶし 行事なので仕方なく 単に遊びたい	・驚きや感動を与えられる 展示を提供 ・自然の中での安らぎを 提供
イベントを見る	通りすがり 楽しそう	・参加意欲をかき立てる 魅力的なイベントの開催 ・広く参加を呼びかける 広報活動 (スポット解説など)
林間学校に参加する	楽しそう 知識を得たい	・長年の伝統を生かした 林間学園の継承、発展 ・広く参加を呼びかける 広報活動
レクチャーに募集し 自主的に参加する	知識を得たい	・多様で特色ある様々な レクチャーを開催 ・広く参加を呼びかける 広報活動 (夜間ツアー、観察会など)
講習を受け 解説ボランティア として活動する	知識を得たい 社会参加したい	・参加者の募集 ・組織作り、講習会の開催 ・持続的な運営と自主的 活動への支援
運営モニターとなる	自分の意見を 反映させたい 社会参加したい	・参加者の募集 ・組織作り ・モニター意見の活用
動植物の 管理作業に参加する	自然と ふれあいたい 社会参加したい	・参加者の募集 ・組織作り ・イベント的管理作業の 開催
健全経営に寄与する 資金援助を行う	動物の生活環境向上 に寄与したい 社会参加したい	・動物里親制度の導入 ・企業寄付の受入れ
計画地をフィールドに 自主的な活動を行う	動物や自然を テーマに 仲間と活動したい	・フィールドや施設の提供 ・活動の支援

中央公園との連携について

計画地と中央公園の連携内容

ゾーン名称	機能	県公園エリアとの連携
動物展示ゾーン (世界の動物)	<ul style="list-style-type: none"> 野生動物の展示 生息地の環境体験 	
動物展示ゾーン (郷土の動物)		
ふれあい動物園 ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 動物とのふれあい 	
里山ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 里山の生活体験 自然観察のガイダンス 動物とのふれあい 	林間の里山体験フィールドとして利用 自然観察のフィールドとして利用
園地ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 広場での休息、軽運動、お弁当 園内の眺望 遊具による遊戯 草花の観賞 	林間のレクリエーション(遊び場)として利用
学習ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 映像を用いた環境学習 林間学園や各種イベント 	
管理ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 動物の管理 希少動物の保護・繁殖 公園全体の管理 	
駐車場		不足する駐車場の整備 駐車場への進入路の整備
その他 (樹林、入口等)	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全 隣接地とのバッファ 	



今後の計画、設計に向けての留意点

- 計画地の経営にあたっては、良質なサービスを継続的に提供するため、経営の健全化が望まれる。
- 現在、仮称として上げられている「動物のいる自然の森公園」という公園名称では、「自然の森」に「動物のいる」のは当然であり、同義反復となっている。今後の検討においては、「動物の森公園」などのわかりやすい名称を検討することが望まれる。
- 計画地におけるシンボリック施設となる「里山ゾーン」は、新しい動物園的施設の方向性を示す重要なエリアである。中央公園との連携を図りながら周辺の良い樹林や水環境をできるだけ取り込むことにより、広いエリアで運営することが望まれる。
- 動物公園と中央公園との利用連携を円滑に図り、かつ誰でもが利用しやすい環境を実現するためには、地形の高低差や施設間の距離を克服する連絡動線を設置する必要がある。
- 郷土の動物として、ズグロカモメ及びニホンカモシカの導入を検討する。